

## 9月 各集落でのお祭り

五穀豊穰、家内安全等を願った各集落のお祭りが行われました。

獅子や天狗、面かぶりなど様々な役に扮した地区の若者たちが、約1カ月間の練習を経てそれぞれの役をこなしました。

村内各地に神社がありますが、今年、舞いのあるお祭りが行われているのは、26区中18区でした。

少子高齢化により、地区の若者が少なくなっているなかで、祭典団(部)員を確保するのは容易なことではなく、消防団と同様、組織員の確保が困難となっています。しかし、地域のコミュニティ活動であるお祭りや消防団は、地区には無くてはならないもので、3月の震災からも分かるように、この組織力が地域を守っていくのではと感じました。

### 獅子舞が行われたお祭り

#### ○10日(土)

- 柳久保 (伊勢神社)
- 西町 (高山神社)
- 市之割 (豊島出神社)
- 平沢 (熊野神社)

#### ○17日(土)

- 糠千 (金山神社)
- 大町・中町 (安国神社)
- 南鴨 (豊足穂神社)
- 西小路・中島 (水穂神社)
- 馬曲 (大山神社)
- 稻荷 (熊野山神社)
- 内山 (八幡神社)

#### ○18日(日)

- 庚 (猿田彦神社)
- 和栗 (伊勢神社)

#### ○22日(木)

- 高石 (譽田別神社)
- 中村 (一川谷大元神社)
- 北鴨 (豊秋津州神社)



糠千祭りの様子

## 9月24日 保育園統合前最後の運動会

今年で統合前最後となる保育園の運動会が9月24日(土) ひまわり保育園・やまぶき保育園の2園で行われました。

秋晴れのなか、2園とも園児たちが力いっぱい園庭を駆け回り、保護者等からも大きな声援が送られていました。

村内には、ひまわり(北部)、さくら(中部)、やまぶき(南部)の3保育園がありました。したが、来々4月からは、現在改修されているさくら保育園を活用し、新たな保育園が誕生します。

また、今年で2回目となる木島平小学校校庭大運動会が9月17日行われました。秋晴れのなか、259人の児童たちが力いっぱい校庭を駆け回りました。木島平小学校は、保育園にさきがけて、平成22年4月に統合となり、旧中部小学校で現在授業を行っています。

木島平小学校と新保育園はいずれも、ケヤキの森公園周辺にあり、お互いの距離が約200m、徒歩で3分程度の距離となるため、保育園と小学校の連携も期待されるのでは...と思います。



小学校運動会



保育園運動会

## 少年時代の思い出

栃木県小山市 岡田 裕充

昭和19年3月生まれ、67歳男性和栗の出身です。高校卒業後は、故郷を離れ、今は栃木県小山市に終の住処を構えています。従って、私の知る木島平は昭和19年から昭和37年までの18年間です。

当時、和栗は所帯数34軒の小部落でしたが、同級生は男子6名、女子1名計7名居ました。

食べ物もまだ十分とは言えない時代で、着るものは継ぎ接ぎがあるのが当たり前、娯楽は村の行事で仲間と行動を共にすることでした。

どうろくじん、ものづくり、やしよんま、甘茶、菖蒲叩き、子供の獅子舞、えびすつこ、盆踊り、飯山の花火大会、灯籠流しなど等走馬灯のように思い浮かびます。それぞれ思いで深いものがありますが、紙面の都合上、どうろくじんに絞ります。

正月、部落の男子が協力し、村有林から15mはある雑木を切って雪の上を引いて来る。7〜8本で直径6m位の円錐形に建て、上部は括って固定する。次に円錐形の外側に細い雑木で胴ぶちを結わえ付ける。そして上部から藁・麦藁・萱など、各戸から提供して貰った屋根材を並べ外側から藁縄で締め上げて行く。最下部には一人一人が屈んで入れる程度の入り口を設け、葎を垂れ下げる…これで完成。この中で暖をとりながら差し入れされたみかんやお餅を焼いて食べた。いよいよ15日夜、大人が火の付いた松明で燃やそうと攻めて来る。子供は燃やされまいと真剣に消し回る。当時は雪も多く、雪野原での戦争ごっこ、火事の心配も全くなかった。風邪を引くこともなかった。冷たい雪の上、ただ楽しかったことだけが60年ほど経過した今もはつきりと記憶に残っている。



## 大地の喜び

神奈川県横浜市 高木清一

故郷を離れて、早40年近くになりますが、土の匂いが忘れられず、時間の許す限り、木島平に行つて、農業をやっております。田圃3反歩に、畑3反歩程。祖母、義兄、姉達と、悪戦苦闘しております。

篤農家だった父からDNAとして『農魂』を受け継いでいますが、最近、『農魂』の意味する所が少しだけ理解できるようになりました。

大自然の前では皆平等、そして、お互い助け合つて得られる自然の恵みの享受と、その恵みをまた人に分け与える事で、得られる喜び。幸せの共有。連鎖。義兄姉達は、数年前から農業を始めましたが、出来たお米・野菜を人にあげては、『おいしい!』と言つて、喜んでもらえる、その喜びを体で感じているようです。

木島平の土地だからこそ余計「おいしい!また作つて!」と言われるのかもしれません。

いつまで、続けられるかわかりませんが、健康でできるだけ長く、この喜びを共有していけたらと、願っております。

木島平の大自然とこのような喜び・幸せの環境を与えてくださる、村、地域の皆様に、感謝せずにはいられません。

写真は、地元の巧みが作られた水車。

大橋(市ノ割から大町へと架かる橋)の手前近くの国道沿いにあります。この型とは違いますが、現代の水車と言えば小水力発電。馬曲温泉に設置されている小水力発電の水車が「ターゴインパルス水車」(英国ギルケルス社製)で、日本初の採用なんだそうです。



美しい大自然に美味しいお米と野菜、そして先人から受け継がれた知恵。故郷木島平は誇りの地です。微力ですが、応援団の一員として、できるだけ多くの方々に、この良さを伝えて行けたらと思っております。